資治通鑑 第189巻

【唐紀五】　起重光大荒落三月，盡十二月，不滿一年。

■唐、●隋など残存勢力、突厥突厥、続国訳漢文大成 経子史部 第11巻082p

高祖神堯大聖光孝皇帝中之中武德四年（辛巳，６２１年）

【突厥など北方の戦い継続】

■**三月**，庚申（56-54+1=３日），靺鞨（七種有り、粟末靺鞨は最南に居り高麗に附く。隋の煬帝の初めに突地稽は来降し、之を柳城に置く）の渠帥の**突地稽**を以て燕州（隋は営州の境汝羅故城に遼西郡を置き、以て靺鞨の降人を置く。武德元年に燕州という）總管と為す。

■［太子の建成は稽胡をだます］太子の**建成**は稽胡千餘人を獲り，其の酋帥數十人を釋し，授けるに官爵を以てし，還ら使め，其の餘黨を招き，**劉仚成**は亦た降る。**建成**は詐りて、

「州縣を增置し，城邑を築く」

と稱し，降胡の年二十以上に命じて皆な集らしめ，兵を以て圍み而して之を殺し，死者六千餘人。**仚成**は變を覺り，亡げて**梁師都**に奔る。

■行軍總管の**劉世讓**は**竇建德**を黄州に攻め，之を拔く。洺州は嚴備し，**世讓**は進むを得ず。會々突厥は將に入寇せんとし，**上**は**世讓**を召して還る。

■［程名振の仁］**竇建德**の署する所の普樂令の（11-083p）平恩の**程名振**は來降し，**上**は遙に**名振**を永寧令に除し，兵を將いて河北を徇え使む。**名振**は夜鄴（相州に属す、河南省河北道臨漳県の境）を襲い，其の男女千餘人を俘とす。鄴を去ること八十里，婦人の乳に湩（乳汁）有る者九十餘人を閲し，悉く之を縱ち遣る。鄴人は其の仁に感じ，之が為に僧に飯す。

突厥［突厥頡利可汗は驕慢］突厥の**頡利可汗**（啟民の子）は父兄之資を承け，士馬は雄盛なり，中國を憑陵する之志有り。妻の隋の**義成公主**，**公主**の從弟の**善經**は，亂を避けて突厥に在り，**王世充**の使者の**王文素**と共な**頡利**に說いて曰く、

「昔**啟民**は兄弟の逼る所と為り（隋の文帝紀にあり），身を脫して隋に奔る。**文皇帝**之力を賴り，此の土宇を有ち，子孫は之を享く。今唐の**天子**は**文皇帝**の子孫に非ず，**可汗**は宜しく**楊政道**（定襄に居る）を奉じて以て之を伐つべし，以て**文皇帝**之德に報ずべし。」

頡利は之を然りとす。**上**は中國の未だ寧からざるを以て，突厥を待すること甚だ厚く，而して**頡利**は求請して厭くこと無く，言辭は驕慢なり。甲戌（10+60-54+1=１７日），突厥は汾陰（元蒲州に属す、時に秦州の治所）を寇す。

【洛陽包囲戦】

■［洛陽包囲で城中飢える］唐兵は洛陽を圍み，塹を掘り壘を築き而して之を守る。城中は食乏しく，絹一匹は粟三升に直し，布一匹は鹽一升に直し，服飾珍玩は，賤しきこと土芥の如し。民は草根木葉を食すること皆な盡き，相い與に浮泥を澄取し，米屑を投じて餅を作りて之を食し，皆な病し，身腫脚弱なりて，死者は相い枕して道に倚る。**皇泰主**之民を遷して宮城に入る也（183巻隋の義寧元年四月にあり），凡そ三萬家，是に至りては三千家無し。貴きこと公卿為りと雖も，糠核（続は糠覈、は麦糠の中破れざる者）充たず，尚書郎以下，親自ら負戴（肩背と首を以てす）し，往往餒死す。**竇建德**は其の將の**范願**をして曹州を守ら使め，悉く**孟**

海公、**徐圓朗**之衆を發し，西に洛陽を救う。滑州に至り，**王世充**の行臺僕射の**韓洪**は開門して之を納れる。己卯（15+60−54+1=２２日），酸棗（隋は鄭州に属す、この時東梁州に属す）に軍す。

突厥■壬午（18+60−54+1=２５日），突厥は石州（離石郡）を寇し，刺史の**王集**は擊ちて之を卻く。

●［**竇建德は三十萬と號す**］**竇建德**は管州を陷し，刺史の**郭士安**を殺す。又た滎陽（鄭州に属す）、陽翟（隋は汝州に属す、時に嵩州に属す）等の縣を陷し，水陸は並せて進み，舟を泛べて糧を運び，河を溯りて西上す。**王世充**之弟の徐州（隋の彭城郡）行臺の**世辯**は其の將の**郭士衡**を遣わし，兵數千を將いて之に會し，合わせて十餘萬，三十萬と號し，成皐（虎牢）之東原（東廣武）に軍し，宮を板渚（黄河は成皐を過ぎて汜水に合し、又東して板城の北を経て津ありて之を板城渚口という）に築き，遣使して**王世充**と相い聞す。

●［**薛收の兩主縛に就く作戦を採用**］是より先，**建德**は秦王の**世民**に書を遺わし，退けて潼關に軍し，鄭の侵地を返し，復た前好を修めんと請う。**世民**は將佐を集めて之を議し，皆な其の鋒を避けんと請い，**郭孝恪**は曰く、

「**世充**は窮蹙し，將に面縛せんとするに垂々とし，**建德**は遠く來たりて之を助く，此れ天意の兩つながら之を亡ぼさんと欲する也。宜しく武牢（唐は李虎を諱みて虎牢を武牢とする）之險に據り以て之を拒み，間を伺い而して動けば，之を破るは必なり矣。」

記室の**薛收**は曰く、(11−084p)

「**世充**は東都に保據し，府庫は充實し，將いる所の之兵は，皆な江、淮の精鋭なり，即日之患いは，但だ糧食に乏しき耳（のみ）。是之故を以て，我の持する所と為り，戰いを求めて得ず，守れば則ち久しくし難し。**建德**は親ら大衆を帥い，遠來して赴き援け，亦た當に其の精鋭を極め，我に死を致すべし（続は欠如）。若し之を縱して此に至らしめれば，兩寇は合從し，河北之粟を轉じて以て洛陽に饋れば，則ち戰爭は方に始まり，兵を偃（ふ）せること日無く，混一之期は，殊（た）えて未だ涯（かぎ）り有らざらん也。今宜しく兵を分けて洛陽を守り，溝を深くし壘を高くし，**世充**が兵を出せば，慎みて與に戰う勿れ，**大王**は親ら驍鋭を帥い，先ず成皐に據り，兵を厲ぎ士を訓え，以て其の至るを待ち，逸を以て勞を待てば，決して克つ可き也。**建德**既に破れれば，**世充**は自ら下り，二旬を過ぎず，兩主は縛に就くべし矣。」

世民は之を善しとす。**收**は，**道衡**（隋の煬帝の殺す所と為る。隋が陳を伐つや、道衡は其の必ず克たんことを知る。薛收が時を識り勢いを審かにするは父の風あり）之子也。**蕭瑀**、**屈突通**、**封德彝**は皆な曰く、

「吾が兵は疲老し，**世充**は堅城に憑守し，未だ猝に拔くは易からず，**建德**は勝ちに席り而して來たり，鋒は鋭く氣は盛んなり。吾が腹背に敵を受ければ，完き策に非ざる也，退きて新安を保ち，以て其の弊を承けるに若ず。」

世民は曰く、

「**世充**の兵は摧（くじ）け食は盡き，上下は離心す，力攻を煩わさず，以て坐して克つ可し。**建德**は新たに**海公**を破り，將驕り卒惰り，吾は武牢に據り，其の咽喉を扼せん。彼が若し冒險して鋒を爭えば，吾が之を取るは甚だ易し。若し狐疑して戰わざれば，旬月之間に，**世充**は自ら潰えん。城は破れ兵は強く，氣勢は自ら倍し，一舉に兩つながら克つこと，此の行に在り矣。若し速かに進まざれば，賊は武牢に入り，諸城の新附は，必ず守る能わず。兩賊が力を並せれば，其の勢いは必ず強し，何の弊をか之を承けん？吾が計は決せり矣！」

通等も又た圍みを解いて險に據り以て其の變を觀るを請い，**世民**は許さず。

■［**李世民は精鋭で竇建德を迎撃**］麾下を中分し，**通**等をして齊王の**元吉**を副えて圍みて東都を守ら使め，**世民**は驍勇三千五百人を將いて東に武牢に趣く。時に正晝に出兵し，北邙を歴，河陽に抵り，鞏に趨

き而して去る。**王世充**は登城して望見し，之を測る莫し也，竟に敢えて出でず。癸未（19+60−54+1=２６日），**世民**は武牢に入る。甲申（20+60−54+1=２７日），驍騎五百を將い，武牢の東二十餘里を出，**建德**之營を覘う。道に緣いて分けて從騎を留め，**李世勣**、**程知節**、**秦叔寶**をして分けて之を將い使め，道の旁に伏せ，才に四騎を餘し，之と偕に進む。**世民**は**尉遲敬德**に謂って曰く、

「吾は弓矢を執る，公は槊を執り相い隨えば，百萬の衆と雖も我を若何せん！」

又た曰く、

「賊は我を見而して還れば，上策也。」

建德の營を去ること三里の所，**建德**の遊兵は之に遇い，以て斥候と為す也。**世民**は大呼して曰く、

「我は秦王也。」

弓を引いて之を射，其の一將を斃す。**建德**の軍中は大いに驚き，五六千騎を出して之を逐う。從者は咸な色を失い，**世民**は曰く、

「汝の弟（第に通じる、但）だ前行すべし，吾は自ら**敬德**と殿と為らん。」

是に於いて轡を按じて徐行し，追騎は將に至らんとし，則ち弓を引いて之を射，輒ち一人を斃す。追う者は懼き而して止まり，止まり而して復た來たり，是くの如きこと再三，來る毎に必ず斃れる者有り，**世民**は前後に數人を射殺し，**敬德**は十許りの人を殺し，(11−085p) 追う者は敢えて復た逼らず。**世民**は逡巡して稍卻き以て之を誘い，伏内に入る，**世勣**等は奮擊し，大いに之を破り，斬首は三百餘級，其の驍將の**殷秋**、**石瓚**を獲り以て歸る。乃ち書を為りて**建德**に報じ，諭して以わく、

「趙魏之地は，久しく我が有為り，足下の侵奪する所と為る。但だ淮安を以て禮せられ（武德二年に建德は趙魏を取り、淮安神通及び同安公主を虜にし、淮安を待つに客禮を以てし、次年八月に公主を遣り帰す），**公主**は歸るを得，故に相い與に坦懷して怨みを釋く。**世充**は頃足下と修好し，已に嘗て反覆し（武德二年に王寶は好みを結ぶ。世充は簒奪するや、建德は之を絶つ。尋ぎて彊場の争あり），今亡びるは朝夕に在り，更に飾辭して相い誘い，足下は乃ち三軍之衆を以て，哺(食べ物)を他人に仰ぎ，千金之資（兵法に曰く、師を興すこと十萬、日に千金を費やすと）は，坐して外費に供するは，良に上策に非ず。今前茅（斥候、茅を以て旌と為し、前に敵有れば旌を挙げて後軍に報ず）は相い遇い，彼は遽に崩摧し，郊勞未だ通じず（古者諸侯は相を見るに、郊勞の禮有り。建德来たりて世充を救うに、唐の兵に阻まれ、使命通じるを得ざるをいう），能く愧を懷く無からんや！故に鋒鋭を抑止し，（之をして）善を擇ぶを聞くを冀う。若し命を獲ざれば，恐らくは悔いると雖も追い難からん。」

■秦王の**世民**之子の**泰**を立てて衛王と為す。

■［豐州の張長遜の入朝］**夏，四月**，己丑（25−24+1=２日），豐州總管の**張長遜**は入朝す（豐州は長安まで 2660 里、隋末に豐州を守り、唐興こりて来降し、ここに始めて入朝す、現・内モンゴル自治区バヤンノール市五原県）。時に事を言う者は多く雲う，

「**長遜**は久しく豐州に居り，突厥の厚き所と為り，國家之利に非ず。」

長遜は之を聞き，入朝するを請い，**上**は之を許す。會々**太子**の**建成**は北に稽胡を伐ち，**長遜**は所部を帥いて之に會し，因りて入朝し，右武候將軍に拜す。益州行臺の左僕射の**寶軌**は巴、蜀の兵を帥いて、來たりて**秦王**に會して**王世充**を擊ち，**長遜**を以て益州行臺の右僕射を檢校せしむ。

突厥■己亥（35−24+1=１２日），突厥の**頡利可汗**は雁門を寇し，**李大恩**は擊ちて之を走らす。

●■［李元吉は戦いて利あらず］壬寅（38−24+1=１５日），**王世充**の騎將の**楊公卿**、**單雄信**は兵を引いて出でて戰い，齊王の**元吉**は之を擊ち，利あらず，行軍總管の**盧君諤**は戰死す。

■**太子**は長安に還る。

■**王世充**の平州（洛州河陰県は古の平陰なり。王世充は平州を置く、河南省河北道孟津県、現・焦作市孟州市）刺史の**周仲隱**は城を以て來降す。

突厥■［唐と突厥の複雑な関係］戊申（44-24+1=２１日），突厥は并州を寇す。初め，**處羅可汗**は**劉武周**と相い表裡し，并州を寇す。**上**は太常卿の**鄭元璹**を遣わして往きて諭すに禍福を以てし，**處羅**は從わず。未だ幾くもなくして，**處羅**は疾に遇いて卒し，國人は**元璹**が之を毒すと疑い，留めて遣らず。**上**は又た漢陽公の**瓌**を遣わし、**頡利可汗**に賂するに金帛を以てし，**頡利**は**瑰**をして拜せ令めんと慾し，**瑰**は從わず，亦た之を留める。又た左驍衛大將軍の**長孫順德**を留める。**上**は怒り，亦た其の使者を留める。**瑰**は，**孝恭**（夔州に鎮す）之弟也。

■甲寅（50-24+1=２７日），皇子の**元方**を封じて周王と為し，**元禮**を鄭王と為し，**元嘉**を宋王と為し，**元則**を荊王と為し，**元茂**を越王と為す。

【李世民は竇建德を撃破】

●［凌敬の中入りの策を竇建德は採用できず］**竇建德**は武牢に迫り進むを得ず，留まり屯すること累月，戰い數々利あらず，將士は歸るを思う。丁巳（53-24+1=３０日），秦王の**世民**は**王君廓**を遣わして輕騎千餘を將いて其の糧運を抄（かす）めしめ，又た之を破り，其の大將軍の**張青特**を獲る。**凌敬**（竇建德の国子祭酒、軍師なり）は**建德**に言って曰く、

「**大王**は兵を悉くして河を濟り，攻めて懷州、河陽を取り，重將をして之を守ら使め，更に鼓を鳴らし旗を建て，太行（山脈）を逾え，上黨に入り，汾、晉を徇え，蒲津に趣き，此くの如くすれば三利有り。一に則ち無人之境を蹈み，勝ちを取るは以て萬全たる可し。二に則ち地を拓き衆を收め，形勢は益々強し。三に則ち關中は震駭し，鄭の圍みは自ら解けん。今之策を為すに，以て此に易える無し。」

建德は將に之に從わんとし，而るに**王世充**は遣使して急を告げ道に相い繼ぎ，**王琬**、**長孫安世**は朝夕に涕泣，洛陽を救うを請い，又た陰に金玉を以て**建德**の諸將に啖わせ，以て其の謀を撓（たわめ）る。諸將は皆な曰く、

「**凌敬**は書生なり，安んぞ戰事を知らん，其の言は豈に用いる可き也！」

建德は乃ち**敬**に謝して曰く、

「今衆心は甚だ鋭なり，天は我を讚（ほ）める也，之に因り決戰すれば，必ず將に大捷せん，公の言に從うを得ず。」

敬は固く之を爭う，**建德**は怒り，扶けて出で令む。其の妻の**曹氏**は**建德**に謂って曰く、

「祭酒之言は違う可からざる也。今**大王**は滏口より唐國之虚に乗じ，營を連ねて漸く進み，以て山北（建德は山南に居り、并州・汾衆・代州・晉州は山北にあり）を取り，又た突厥に因りて西に關中を抄めれば，唐は必ず師を還して自ら救わん，鄭の圍みは何ぞ解かざるを憂えん！若し兵を此に頓めれば，師は老（つか）れ財は費やし，成功を求めるを欲すれども，何の日にか在らんや？」

建德は曰く、

「此れ女子の知る所に非ず！吾は來たりて鄭を救い，鄭は今倒懸し，亡びんこと朝夕に在り，吾は乃ち之を捨て而して去れば，是れ敵を畏れ而して信を棄てる也，可からず。」

■●［李世民の陽動作戦］諜者は告げて曰く、

「**建德**は唐軍の芻盡き，馬を河北に牧するを伺い（胡三省曰く、此れ謂わゆる善く戰う者は、其の勢いに因りて之を利導するなりと），將に武牢を襲わんとす。」

五月，戊午（54-53+1=２日），秦王の**世民**は北に河を濟り，南に廣武（西廣武）に臨み，敵の形勢を察し，因りて馬千餘匹を留めて，河渚に於いて牧し以て之を誘い，夕に武牢に還る。己未（55-53+1=３日），**建德**は果たして衆を悉くし而して至り，板渚より牛口に出でて陳を置き，北に大河を距(へだ)て，西に汜水（水経注に、汜水は南浮戯山に出る。亦之を方山と謂う。北して虎牢城の東を経て、又北流して河に注ぐ）に薄(せま)り，南に鵲山に屬し，二十里に亙り，鼓行し而して進む。諸將は皆な懼れ(其の多きを恐れる)，**世民**は數騎を將いて高丘に升り以て之を望み，諸將に謂って曰く、

「賊は山東に起き，未だ嘗て大敵を見ず，今險を度り而して囂(かまびす)しきは，是れ紀律無く，城に逼り而して陳す，我を輕んじるの心有り。我は甲を按じて出でざれば，彼の勇氣は自ら衰え，陳久しくして卒は饑え，勢いは將に自ら退き，追い而して之を擊てば，克たざる者は無し。公等と約す，甫(わずか)（始めてなり）に日中を過ぎ，必ず之を破らん矣！」

建德の意は唐軍を輕んじ，三百騎を遣わして汜水を涉り，唐營の距てること一里の所に止まらしむ。遣使して**世民**と相い聞して曰く、(11-087p)

「請う鋭士數百を選びて之と劇(たわむ)（戯）れん。」

世民は**王君廓**を遣わして長槊二百を將いて以て之に應ぜしめ，相い與に交戰し，乍(たちま)ち進み乍ち退き，兩つながら勝負無く，各々引いて還る。**王琬**は隋の**煬帝**の驄馬に乗り，鎧仗は甚だ鮮かなり，迥(はる)かに陳前に出以て衆に誇る。**世民**は曰く、

「彼の乗る所は真に良馬也！」

尉遲敬德は往きて之を取らんと請い，**世民**は之を止めて曰く、

「豈に一馬を以て猛士を喪う可けんや？」

敬德は從わず，**高甑生**、**梁建方**と三騎にして直ちに其の陳に入り，**琬**を擒とし，其の馬を引き以て歸り，衆は敢えて當たる者無し。**世民**は河北の馬を召さ使め，其の至るを待ち，乃ち出でて戰う。

■●［李世民は竇建德を破り捕虜とする］**建德**は陳を列し，辰より午に至り，士卒は饑倦し，皆な坐列し（闘志無し），又た爭いて水を飲み，逡巡して退かんと欲す。**世民**は**宇文士及**に命じて三百騎を將いて**建德**の陳を經て西して，馳せ而して南に上らしめ，之を戒めて曰く、

「賊が若し動かざれば，爾は宜しく引いて歸るべし，動けば則ち兵を引いて東に出でるべし。」

士及は陳前に至り，陳は果たして動き，**世民**は曰く、

「擊つ可し矣！」

時に河渚の馬も亦た至り，乃ち命じて出で戰わしむ。**世民**は輕騎を帥いて先ず進み，大軍は之に繼ぎ，東に汜水を涉り，直ちに其の陳に薄る。**建德**の群臣は方に朝謁し，唐騎が猝に來たり，朝臣は趨りて**建德**に就き，**建德**は騎兵を召して唐兵を拒ま使め，騎兵は朝臣に阻まれ過ぎるを得ず，**建德**は朝臣を揮し卻か令め，進退之間，唐兵は已に至り，**建德**は窘迫し，退きて東陂に依る。**竇抗**は兵を引いて之を擊ち，戰いは小しく利あらず。**世民**は騎を帥いて之に赴き，向かう所皆な靡く。淮陽王の**道玄**は挺身して陳を陷し，直ちに其の後に出，復た陳を突き而して歸り，再び入りて再び出，飛矢は其の身に集まり蝟毛（はりねずみ）の如し，勇氣は衰えず，人を射れば，皆な弦に應じ而して仆（僕×）れる。**世民**は給するに副馬を以てし，己に從わ使む。是に於いて諸軍は大いに戰い，塵埃は天に漲る。**世民**は**史大柰**、**程知節**、**秦叔寶**、**宇文歆**等を帥いて旆を卷き而して入り，其の陳後に出，唐の旗幟を張り，**建德**の將士は顧みて之を見，大いに潰える。奔るを追うこと三十里，斬首は三千餘級。**建德**は槊に中たり，牛口渚に竄匿す。車騎將軍の**白士讓**、**楊武威**は之を逐い，**建德**は馬より墜ち，**士讓**は槊を援り之を刺さんと欲し，**建德**は曰く、

「我を殺す勿れ，我は**夏王**也，能く汝を富貴にせん。」
武威は（馬を）下りて之を擒とし，載せるに從馬を以てし，來たりて**世民**に見える。**世民**は之を讓めて曰く、
「我は自ら**王世充**を討つ，何ぞ汝の事に預りて，而るに來たりて境を越え，我が兵鋒を犯すや！」
建德は曰く、
「今は自ら來たらざれば，恐らくは遠く取るを煩わさん。」
建德の將士は皆な潰え去り，俘獲する所は五萬人，**世民**は即日之を散遣し，鄉里に還ら使む。
■**封德彝**は入りて賀し，**世民**は笑いて曰く、
「公の言を用いず，今日有るを得たり。智者も千慮に，一失を免かれざる乎（李左車の言）！」
德彝は甚だ慚じる。
●**建德**の妻の**曹氏**は左僕射の**齊善行**と數百騎を將いて遁れて洺州に歸る。
●甲子（60-53+1=８日），**世充**の偃師、鞏縣は皆な降る。
■乙丑（1+60-53+1=９日），**太子**の左庶子の**鄭善果**を以て山東道撫慰大使と為す。(11-088p)

【王世充も一挙に降伏】

■●［世充は降伏して頓首謝罪］**世充**の將の**王德仁**は故洛陽城（漢魏の古都）を棄て而して遁げ，亞將の**趙季卿**は城を以て降る。秦王の**世民**は**竇建德**、**王琬**、**長孫安世**、**郭士衡**等を囚えて洛陽城下に至り，以て**世充**に示し。**世充**は**建德**と語り而して泣き，仍って**安世**等を遣わして城に入り敗狀を言わしむ。**世充**は諸將を召して圍みを突きて，南に襄陽（王弘烈・王泰に就かんと欲す）に走るを議し，諸將は皆な曰く、
「吾が恃む所の者は**夏王**なり，**夏王**は今已に擒と為り，出ずるを得ると雖も，終に必ず成る無からん。」
丙寅(2+60-53+1=１０日)，**世充**は素服して其の**太子**、郡臣、二千餘人を帥いて軍門に詣りて降る。**世民**は之を禮接し，**世充**は俯伏して流汗す。**世民**は曰く、
「卿は常に童子を以て處せらる，今童子を見るに，何ぞ恭々しき之甚だしき邪？」
世充は頓首して謝罪す。是に於いて諸軍を部分し，先ず洛陽に入り，市肆を分けて守らしめ，侵掠を禁止し，敢えて犯す者無し。
■［世充之黨十四人を斬る］丁卯（3+60-53+1=１１日），**世民**は宮城に入り，記室の**房玄齡**に命じて先ず中書、門下省に入り隋の圖籍制詔を收めしめ，已に**世充**の毀す所と為り，獲る所無し。**蕭瑀**、**竇軌**等に命じて府庫を封じ，其の金帛を收め，將士に班賜せしむ。**世充**之黨を收めて罪の尤も大き者の**段達**、**王隆**、**崔洪丹**、**薛德音**、**楊汪**、**孟孝義**、**單雄信**、**楊公卿**、**郭什柱**、**郭士衡**、**董睿**、**張童兒**、**王德仁**、**朱粲**、**郭善才**等十餘人は洛水之上に斬る。
■［李世勣は單雄信の誓い］初め，**李世勣**は**單雄信**と友善し，生死を同じくせんと誓う。洛陽の平らぐに及び，**世勣**は**雄信**が驍健絶倫なるを言い，盡く己之官爵を輸(いた)して以て之を贖うを請い，**世民**は許さず。**世勣**は固く請いて得る能わず，涕泣し而して退く。**雄信**は曰く、
「我は固より汝が事を辦じざるを知る！」
世勣は曰く、
「吾は餘生を惜しまず，兄と俱に死せん。但だ既に此の身を以て國に許す，事は兩つながら遂ぐ無し。且つ吾死する之後，誰か復た兄之妻子を視る乎？」
乃ち股肉を割きて以て**雄信**に啖わせて，曰く、

「此の肉をして兄に隨いて土と為ら使めば，庶幾わくは猶ほ昔の誓いに負かざる也！」
士民は**朱粲**の殘忍なるを疾み，競いて瓦礫を投げ其の屍を擊ち，須臾にして塚の如し。**韋節**、**楊續**、**長孫安世**等十餘人を囚えて長安に送る。士民の罪無くして**世充**の囚える所と為る者は，皆な之を釋し，殺す所の者は祭り而して之を誄(るい)す（古に卿士大夫が没するときには、君は有司に命じて、其のくどくを累ねて、文を為らしめ以て之を哀む、これを誄と曰く。今これを誄するは、其の罪無くして死するを哀むなり）。

【東都の戦後処理、】

■［隋の宰相の蘇威は死す］初め，秦王の府屬の**杜如晦**の叔父の**淹**は**王世充**に事える。**淹**は素より**如晦**の兄弟と協せず，**如晦**の兄を譖して之を殺し，又た其の弟の**楚客**を囚え，餓えて幾んど死せんとし，**楚客**は終に怨色無し。洛陽の平らぐに及び，**淹**は當に死せんとし，**楚客**は涕泣して**如晦**に之を救うを請い，**如晦**は從わず。**楚客**は曰く、
「曩者(さき)に叔は已に兄を殺し，今兄は又た叔を殺す，一門之内，自ら相い殘い而して盡きん，豈に痛ましからず哉！」
自ら剄ねんと欲し，**如晦**は乃ち之が為に**世民**に請い，**淹**は死を免かるるを得たり。秦王の**世民**は閶闔(しょうこう)門（晋は洛陽に都す。其の城の西面北来の第三門をいう）に坐し，**蘇威**は見(まみ)えるを請い，老病と稱して拜する能わず。**世民**は人を遣わして之を數めて曰く、
「公は隋室の宰相なり，危うけれども扶ける能わず，君をして弑せられ國をして亡び使む。**李密**、**王世充**を見れば（11-089p）皆な拜伏して舞蹈す。今既に老病なり，相い見るを勞する無し。」
長安に至るに及び，又た見えるを請い，許さず。既に老い且つ貧しく，復た官爵無く，家に於いて卒す，年は八十二。
■［奢侈な門宮殿の破壊］秦王の**世民**は隋の宮殿を觀，歎じて曰く、
「侈心（奢る心）を逞(たくま)しくして，人欲を窮める，亡びる無からんとするを得ん乎！」
命じて端門（東都の皇城の南面の三門の中を端門）樓を撤し，乾陽殿（後にここに乾元殿を起す）を焚き，則天門（唐の宮城の南面の三門の中を応天門、隋の則天門）及び闕を毀(こわ)す。諸道場を廢し，城中の僧尼は，名德有る者各々三十人を留め，餘は皆な初めに返す（初服に返すなり、還俗）。
■［周法明は四郡にて来降］前真定（隋は恒山郡を帯びる、唐は郡を改めて恒州と為す）令の**周法明**は，**法尚**（狆り隋に入りて将となる）之弟也，隋末に客を結び，襲いて黄梅（旧永興という、開皇の初め改めて新蔡という、十八年また黄梅、黄梅山による命名、現・湖北省黄岡市黄梅県）に據り，族子の**孝節**を遣わして蘄春（漢の県、江夏郡に属す。呉は蘄春郡と為す、現・湖北省黄岡市蘄春県）を攻めしめ，兄の子の**紹則**をして安陸（漢の県、江夏郡に属す、宋は分けて安陸郡を置く、現・湖北省孝感市安陸市）を攻めしめ，子の**紹德**をして沔陽（漢の竟陵県、江夏郡のに属す。北周は復州を置き、大業の初め、沔州と改め尋ぎて沔陽郡と為す、現・湖北省仙桃市）を攻めしめ，皆な之を拔く。庚午（6+60-53+1=１４日），四郡を以て來降す。
■［齊善行は建德の餘州をまとめて降る］壬申（8+60-53+1=１６日），**齊善行**は洺、相、魏等の州を以て來降す。時に**建德**の餘衆は走りて洺州に至り，**建德**の養子を立てて主と為さんと欲し，徵兵して以て唐を拒む。又た居民を剽掠せんと欲し，還りて海隅に向かい盗を為す。**善行**は獨り以て不可と為し，曰く、
「隋末は喪亂す，故に吾が屬は草野に相い聚まり，苟くも生を求める耳。**夏王**之英武にして，河朔を平定し，士馬精強なるを以てさえ，一朝にして擒と為り，易きこと掌を反すが如し，豈に天命の屬する所に有り，人力の能く爭う所に非ざるに非ず邪！今喪敗は此くの如し，守りて亦た成る無く，逃げるに亦た免か

れず。等しく亡國と為れば，豈に復た毒を民に遺す可けんや！若かず心を委（続は悉）ねて命を唐に請わんには。必ず繒帛を得んと欲する者は，當に盡く府庫之物を散じ，復た民を殘なう勿かれ也！」
是に於いて府庫之帛數十萬段を運び，萬春宮（寶建德の築く所）の東街に置き，以て將卒に散じ，凡そ三晝夜乃ち畢る。仍ほ兵を佈きて坊巷を守らしめ，物を得る者は即ち出で，更に人家に入るを得る無からしむ。士卒は散じ盡き，然る後に右僕射の**裴矩**、行臺の**曹旦**と，其の百官を帥いて**建德**の妻の**曹氏**及び傳國の八璽，並びに**宇文化及**の破りて得る所の珍寶（武德二年に建德は化及を破り得る）を奉じ，降を唐に請う。**上**は**善行**を以て秦王の左二護軍（秦王の統べる所は左三府・右三府を置き、命じて統軍護軍と為す）と為し，仍ほ厚く之を賜う。
●［宇文士及と南陽公主］初め，**寶建德**之**宇文化及**を誅する也，隋の**南陽公主**に子有り**禪師**と曰う，**建德**の虎賁郎將の**於士澄**（大業の初め、龍舟を造るや、於士澄は已に上儀同たり、江南に往きて木を採る）は之を問いて曰く、
「**化及**は大逆す，兄弟之子は皆な當に從坐すべし，若し**禪師**を捨く能わざれば，當に相い為に之を留むべし。」
公主は泣いて曰く、
「虎賁は既に隋室の貴臣なり，茲の事は何ぞ問われるを須いん！」
建德は竟に之を殺す。**公主**は尋いで尼に為るを請う。(11-090p) **建德**の敗れるに及び，**公主**は將に長安に歸らんとし，**宇文士及**と洛陽に遇い，**士及**は與に相い見るを請い，**公主**は可からず。**士及**は戸外に立ち，復た夫婦と為るを請い。**公主**は曰く、
「我は君と仇家なり，今君を手刃せざる所以の者は，但だ逆を謀る之日，君が預り知らざるを察する耳。」
訶して速かに去ら令む。**士及**は固く請い，**公主**は怒りて曰く、
「必ず死に就かんと欲すれば，相い見る可き也！」
士及は屈す可からざるを知り，乃ち拜辭し而して去る。
■乙亥（11+60-53+1=１９日），**周法明**を以て黄州（黄岡県に治す、漢の江夏郡西陵連の地、隋は黄州を置き、尋ぎて永安郡に改める。湖北省江漢道黄岡県、現・黄岡市）總管と為す。
■［世充の地は平らぐ］戊寅（14+60-53+1=２２日），**王世充**の徐州行臺の杞王の**世辯**は徐、宋等三十八州を以て河南道安撫大使の**任瓌**に詣りて降を請う。**世充**の故地は悉く平らぐ。
■［寶建德の地は平らぐ］**寶建德**の博州（山東省東臨道聊城県西北十五里、現・聊城市東昌府区）刺史の**馮士羨**は復た淮安王の**神通**を推して慰撫山東使と為し，三十餘州を徇え下す。**建德**之地は悉く平らぐ。

■己卯（15+60-53+1=２３日），代州總管の**李大恩**は**苑君璋**を擊ち，之を破る。
突厥■突厥は邊を寇し，長平の靖王の**叔良**は五將を督して之を擊ち，**叔良**は流矢に中たる。師は旋し，**六月**，戊子（24-23+1=２日），道に卒す。
●戊戌（34-23+1=１２日），**孟海公**の餘黨の**蔣善合**は鄆州（隋の東平郡）を以て，**孟啖鬼**は曹州（隋の済陰郡）を以て來降す。**啖鬼**は，**海公**之從兄也。庚子（36-23+1=１４日），營州（隋の遼西郡）人の**石世則**は總管の**晉文衍**を執り，州を舉げて叛し，靺鞨の**突地稽**を奉じて主と為す。
■黄州總管の**周法明**は**蕭銑**を安州（蕭銑は蓋し亦安州を隋の安陸郡の界に置く、現・湖北省孝感市一帯）に攻め，之を拔き，其の總管の**馬貴遷**を獲る。
■乙巳（41-23+1=１９日），右驍衛將軍の**盛彥師**を以て宋州（現・河南省商丘市一帯）總管と為し，河南を安撫せしむ。
■乙卯（51-23+1=２９日），海州（隋の東海郡、魏の武定七年に海州を置く、現・連雲港市東海県）の賊帥の**臧君相**は五

州を以て來降し，海州總管を拜す。

■［蘇世長の諫言］秋，七月，庚申（56-52+1=５日），王世充の行臺の王弘烈、王泰、左僕射の豆盧行褒、右僕射の蘇世長は襄州（隋の襄陽郡）を以て來降す。上は行褒、世長と皆な舊有り，是より先，屢々書を以て之を招き，行褒は輒ち使者を殺す。既に長安に至り，上は行褒を誅し而して世長を責める。世長は曰く、

「隋は其の鹿を失い，天下は共に之を逐う。陛下は既に之を得たり矣，豈に復た同獵之徒を忿り，肉を爭う之罪を問う可けん乎！」

上は笑い而して之を釋し，以て諫議大夫と為す。嘗て從いて高陵に校獵（大いに閉校を作りて禽獸を遮り以て猟取す）し，大いに禽獸を獲り，上は群臣を顧みて曰く、

「今日の畋は，樂しき乎？」

世長は對えて曰く、

「陛下の遊獵は，薄（しばら）く萬機を廢す，十旬に滿たず，未だ樂しみと為すに足らず！」

上は色を變じ，既に而して笑いて曰く、

「狂態復た發する邪？」

對えて曰く、

「臣に於いては則ち狂なり，陛下に於いては甚だ忠なり。」

嘗て宴に披香殿（慶善宮に在り、高祖の旧第）に侍して，酒酣にして，上に謂って曰く、

「此の殿は煬帝之為す所邪？」

上は曰く、

「卿は諫めること (11-091p) 直に似て而るに實は詐り多し，豈に此の殿は朕が為る所なるを知らずして，而るに之を煬帝と謂う乎？」

對えて曰く

「臣は實に知らず，但だ其の華侈なること傾宮、鹿臺（紂がつくる）の如く，興王之為す所に非ずと見るが故也。若し陛下が之を為れば，誠に宜しき所に非ず。臣は昔陛下に武功に侍し，居る所の宅を見るに僅に風雨を庇うのみ，當時亦た以て足ると為す。今隋之宮室に因り，已に侈りを極め矣，而して又た之を增す，將に何を以て其の失を矯めん乎？」

上は深く之を然りとす。

■［李世民の長安凱旋］甲子（60-52+1=９日），秦王の世民は長安に至る。世民は黄金甲を被り，齊王の元吉、李世勣等二十五將は其の後に從い，鐵騎は萬匹，甲士は三萬人，前後部鼓吹（軍楽）し，俘の王世充、竇建德及び隋の乘輿、御物を太廟に獻じ，飲至之禮（戦勝から帰り宗廟に飲す）を行い以て之を饗す。

高句麗■乙丑（1+60-52+1=１０日），高句麗王の建武は遣使して入貢す。建武は，元（高元は隋紀にあり）之弟也。

■［王世充を庶人にし、竇建德を斬る］上は王世充を見而して之を數め，世充は曰く、

「臣の罪は固より誅に當る，然るに秦王は臣に死せざるを許したり。」

丙寅（2+60-52+1=１１日），詔して世充を赦して庶人と為し，兄弟子侄と徙して蜀に處らしむ。竇建德を市に斬る。

■［天下定まり大赦す］丁卯（3+60-52+1=１２日），天下が略（ほ）ぼ定まるを以て，大赦す。百姓は復一年を

給す。陝（陝州は陝に治す、河南省河洛道陝県、現・三門峡市陝州区）、鼎（湖城は武徳元年に鼎州という）、函（武徳三年に永寧崤を以て函州を置く、現・洛陽市洛寧県）、虢（義寧元年に盧氏・長水・桃林を分けて虢郡を置）、虞（義寧元年に安邑・虞郷・夏を以て安邑郡を置く、武徳元年に虞州を置く、隋代に蒲州より分離、現・山西省運城市塩湖区安邑街道・解州鎮）、芮（武徳二年に芮城・河北・北樂を以て芮州を置く、現・山西省運城市芮城県永楽鎮）六州，轉輸勞費し，幽州の管内，久しく寇戎に隔たる，並びて復二年を給す。律、令、格、式は，且（しばら）く開皇の舊制を用いる。赦令は既に下り，而るに**王**、**竇**の餘黨は尚ほ遠く徙る者有り，治書侍御史の**孫伏伽**は上言す、

「兵、食は去る可し，信は去る可からず，**陛下**は已に赦し而して復た之を徙す，是れ自ら本心に違い，臣民をして何の憑依する所あら使むるや？且つ**世充**すら尚ほ寛宥を蒙る，況んや餘黨に於いてをや，宜しく縱釋すべき所なり。」

上は之に從う。

■［獨孤修德は王世充を殺す］**王世充**は防夫の未だ備わざるを以て，雍州の廨捨（後に京兆府と為す、光德坊に在り）を置く。**獨孤機**（武德二年正月に獨孤機兄弟は世充に殺される、故に修德は仇を報じる）之子の定州刺史の**修德**は兄弟を帥いて其の所に至り，矯りて敕と稱し**鄭王**と呼ぶ。**世充**は兄の**世惲**と趨り出で，**修德**等は之を殺す。詔して**修德**の官を免ず。其の餘の兄弟子侄等は，道に於いて亦た反を謀るを以て誅せらる。

■［開元通寶錢］隋末に錢幣は濫薄にして，皮を裁ち紙に糊して之を為るに至り，民間は其の弊に勝（た）えず。是に至り，初めて開元通寶錢を行い，逕は八分（続は欠如），重さは二銖四參，十錢を積みて重さ一兩，輕重大小は最も折衷と為す，遠近は之を便とす。給事中の**歐陽詢**に命じて其の文を撰し並びに書せしむ，迴環して讀む可し。

■［屈突通は洛陽、竇軌は益州］**屈突通**を以て陝東道大行臺右僕射と為し，洛陽に鎮ぜしむ。淮陽の**王道玄**を以て洛州總管と為し，**李世勣**の父の**蓋**（虜となるは 187 巻武德二年 10 月）は竟に恙無く而して還り，詔して其の官爵を復す。**竇軌**は（洛より）益州に還る。(11-092p) **軌**は兵を將いて征討し，或は旬月を經て甲を解かず。性は嚴酷にして，將佐の犯す者あれば，貴賤と無く立ちどころに之を斬り，吏民を鞭撻し，常に流血して庭に滿ち，所部は足を重ねて屏息す。

■［錢監を諸州に置く］癸酉（9+60-52+1=１８日），錢監を洛、並、幽、益等の諸州に置き，秦王の**世民**、齊王の**元吉**は三爐（続は鑪、賜うに官爐を以てす、鑪は治）を賜り，**裴寂**は一爐を賜り，鑄錢を聽す。自餘は敢えて盜鑄する者は，身は死し，家口は配沒せられる。

■［河北・山東の支配体制］河北は既に平らぎ，**上**は**陳君賓**を以て洺州刺史と為す。將軍の**秦武通**等は兵を將いて洺州に屯し，分けて東方諸州に鎮せ使めんと欲す。又た**鄭善果**等を以て慰撫大使と為し，洺州に就き山東の州縣の官を選補せしむ。

■［竇建德残党の劉黑闥の乱］**竇建德**之敗れる也，其の諸將は多く庫物を盜み匿し，及び閭里に居り，暴横にして民の患いと為り，唐の官吏は法を以て之を繩（ただ）し，或は捶撻を加え，**建德**の故將は皆な驚懼して安ぜず。**高雅賢**、**王小胡**の家は洺州に在り，其の家を竊みて以て逃げんと欲し，官吏は之を捕る，**雅賢**等は亡命して貝州（隋の清河郡）に至る。會々**上**は**建德**の故將の**范願**、**董康買**、**曹湛**及び**雅賢**等を征し，是に於いて**願**等は相い謂って曰く、

「**王世充**は洛陽を以て唐に降り，其の將相大臣の**段達**、**單雄信**等は皆な夷滅せらる。吾が屬は長安に至り，必ず免れず矣。吾が屬は十年より以來，身は百戰を經，當に死すべきこと久し矣，今何ぞ餘生を惜（おし）み，之を以て事を立てざる。且つ**夏王**は**淮安王**を得（187 巻二年十月にあり），遇するに客禮を以てし，唐は**夏王**を得て即ち之を殺す。吾が屬は皆な**夏王**の厚き所と為り，今之が為に仇を報いざれば，將に以て天下之士を

見る無からんとす！」
乃ち亂を作らんと謀り，之をトし，**劉氏**を以て**主**と為せば吉なり，因りて相い與に漳南（貝州に属す、漢の東陽県なり。隋の開皇十八年に棗彊・清平二県の地を分けて漳南県を古の東陽城に置く）に之き，**建德**の故將の**劉雅**を見，其の謀を以て之に告げる。**雅**は曰く、
「天下は適々安定す，吾は將に耕桑に老いん，復た兵を起こすを願わず！」
衆は怒り，且つ其の謀の洩れるを恐れ，遂に之を殺す。故の漢東公（竇建德が封じる爵）の**劉黑闥**は，時に漳南に屏居し，諸將は往きて之に詣り，告げるに其の謀を以てし，**黑闥**は欣然として之に從う。**黑闥**は方に蔬を種え，即ち耕牛を殺し，之と共に飲食して計を定め，衆を聚めて百人を得る。甲戌（10+60−52+1=１９日），漳南縣を襲いて之に據る。是の時，諸道は事有れば則ち行臺尚書省を置き，事無ければ則ち之を罷める。朝廷は**黑闥**の亂を作すを聞き，乃ち山東道行臺を洺州に置き，魏、冀、定、滄に並びて總管府を置く。丁丑（13+60−52+1=２２日），淮安王の**神通**を以て山東道臺右僕射と為す。

【劉黑闥の挙兵、徐圓朗の呼応】

■辛巳（17+60−52+1=２６日），褒州（襄州に作るべし）道安撫使の**郭行方**は**蕭銑**の鄀州（武德四年に竟陵の榮鄉及び襄州の率道・上洪を以て鄀州を置く）を攻め，之を拔く。
■［孟瞰鬼の反乱失敗］**孟海公**は**竇建德**と同じく伏して誅せられ，戴州（武德四年に曹州の成武・宋州の単父・楚丘を以て戴州を置く）刺史の**孟瞰鬼**は自ら安んぜず，**海公**之子の**義**を挾みて曹、戴の二州を以て反し，禹城（齊州に属す、隋の祝阿、山東省東臨道禹城県、現・德州市斉河県祝阿鎮）令の**蔣善合**を以て腹心と為す。**善合**は其の左右と同じく謀りて之を斬る。(11−093p)
■**八月**，丙戌（22−22+1=１日）朔，日之を食する有り。
■丁亥（23−22+1=２日），太子に命じて北邊を安撫せしむ。
■［劉黑闥は挙兵］丁酉（33−22+1=１２日），**劉黑闥**は鄃縣（貝州に属す）を陷し，魏州（隋の武陽郡）刺史の**權威**、貝州刺史の**戴元祥**は與に戰い，皆な敗死し，**黑闥**は悉く其の餘衆及び器械を收める。**竇建德**の舊黨は稍稍（ようやく）出でて之に歸し，衆は二千人に至り，壇を漳南に為り，**建德**を祭り，告げるに舉兵之意を以てし，自ら大將軍と稱す。詔して關中の步騎三千を發して，將軍の**秦武通**、定州總管の藍田（雍州に属す、陝西省関中道藍田県、現・西安市藍田県）の**李玄通**をして之を擊た使む。又た幽州總管の**李藝**に詔して兵を引いて會して**黑闥**を擊たしむ。
突厥■［突厥は代州を寇す］癸卯（39−22+1=１８日），突厥は代州を寇し，總管の**李大恩**は行軍總管の**王孝基**を遣わして之を拒ましめ，軍を舉げて皆な沒す。甲辰（40−22+1=１９日），進みて崞縣（代州に属す、山西省雁門道崞県、現・忻州市原平市）を圍む。乙巳（41−22+1=２０日），**王孝基**は突厥より逃げ歸り，**李大恩**の衆は少く，城に據りて自ら守り，突厥は敢えて逼らず，月餘にして引き去る。
■［南方の鎮撫］**上**は南方の寇盜尚ほ多きを以て，丙午（43−22+1=２２日），左武候將軍の**張鎮周**を以て淮南道行軍總管と為し，大將軍の**陳智略**をして嶺南道行軍總管と為し，之を鎮撫せしむ。
■［劉黑闥は歴亭を陷す］丁未（43−22+1=２２日），**劉黑闥**は歴亭（漢の東陽の地、隋の開皇十六年に鄃県を分けて置く。貝州に属す。山東省東臨道恩県の西四十里、現・德州市平原県）を陷し，屯衛將軍の**王行敏**を執り，之をして拜せ使めるも，可かず，遂に之を殺す。
■［徐圓朗は劉黑闥に応じて挙兵］初め，洛陽は既に平らぎ，**徐圓朗**は降を請い，兗州（隋の魯郡）總管に拜し，魯郡公に封じる。**劉黑闥**は亂を作し，陰に**圓朗**と通謀す。**上**は葛公の**盛彥師**をして河南を安集せ使

め，行きて任城（兗州に属す）に至る。辛亥（47-22+1=２６日），**圓朗**は**彦師**を執り兵を舉げて反す。**黑闥**は**圓朗**を以て大行臺元帥と為し，兗、鄆、陳、杞、伊、洛、曹、戴等八州の豪右は皆な之に應じる。**圓朗**は厚く**彦師**を禮し，書を作りて其の弟に與え使め，虞城（宋州に属す。隋は下邑県分けて虞城県を置く。時に東虞州を置く）を舉げて降ら令む。**彦師**は書を為りて曰く、

「吾は使いを奉じること無狀にして，賊の擒る所と為り，臣と為りて不忠なり，之を誓うに死を以てす。汝は善く老母に侍し，吾を以て念と為す勿れ。」

圓朗は初め色動き，而るに**彦師**は自若たり。**圓朗**は乃ち笑いて曰く、

「**盛**將軍は壯節有り，殺す可からざる也。」

之を待つこと舊の如し。

■［任瑰の深い読み］河南道の安撫大使の**任瑰**は行きて宋州（睢陽に治す、時に宋城県と為す）に至り，屬々（たまたま）**圓朗**は反し，副使の**柳浚**は**瑰**に退きて汴州（宋州の西 285 里）を保つを勸め，**瑰**は笑いて曰く、

「**柳**公（続は柳）は以て（続は無し）何ぞ怯なる也！」

圓朗は又た攻めて楚丘（戴州に属す県、山東省済寧道曹県の東南、菏沢市曹県）を陷し，兵を引いて將に虞城を圍まんとし，**瑰**は部將の**崔樞**、**張公謹**を遣わして鄢陵（時に洧州に属す）より諸州の豪右の質子百餘人を帥いて虞城を守らしめ。**濬**は曰く、

「**樞**と**公謹**とは皆な**王世充**の將なり，諸州の質子父兄は皆な反し，(11-094p) 恐らくは必ず變を為さん。」

瑰は應じず。**樞**は虞城に至り，質子を分けて土人と隊を合わせて共に城を守ら使む。賊は稍近づき，質子の叛する者有り，**樞**は其の隊帥を斬る。是に於いて諸々の隊帥は皆な懼れ，各々其の質子を殺し，**樞**は禁じず，其の首を門外に梟し，遣使して**瑰**に白す。**瑰**は陽（いつわ）りて怒りて曰く、

「吾が質子と俱にせ使むる所以の者，其の父兄を招かんと欲する耳，何の罪あり而して之を殺すや！」

退きて**濬**に謂って曰く、

「吾は固より**崔樞**の能く此を辦ぜんを知る也。縣人は既に質子を殺し，賊と深く仇なり，吾は何ぞ患えん乎！」

賊は虞城を攻め，果たして克たず而して去る。

■［崔元遜は刺史の裴晞を殺す］初め，**竇建德**は鄱陽（饒州に属す、現・江西省上饒市鄱陽県）の**崔元遜**を以て深州（隋の開皇十六年に定州の安平を以て置く。大業の初めに廃す。武德四年に定州の安平・瀛州の饒陽を以て置く。河間郡饒陽県、現・河北省衡水市饒陽県）刺史と為し，**劉黑闥**の反するに及び，**元遜**は其の黨數十人と野に謀り，甲士を車中に伏し，禾を以て其の上を覆い，詐りて農人と為り（続は無し），直ちに聽事に入り，禾中より呼噪し而して出で，刺史の**裴晞**を執り之を殺し，首を**黑闥**に傳える。

■［登州を置く］九月，乙卯（51-51+1=１日），文登（本は漢の牟平県の地、南齊は文登県を置く、文登山に因りて名付ける。隋は東萊郡に属す。謬東道文登県、現・山東省威海市文登区）の賊帥の**淳于難**は降を請う。登州を置き，**難**を以て刺史と為す。

突厥■［突厥侵入］突厥は并州を寇す。左屯衛大將軍の**竇琮**等を遣わして之を擊たしむ。戊午（54-51+1=４日），突厥は原州を寇す。行軍總管の**尉遲敬德**等を遣わして之を擊たしむ。

●［徐圓朗は魯王］辛酉（57-51+1=７日），**徐圓朗**は自ら魯王と稱す。

■［歙州の汪華は來降す］隋末に，歙州（本は新安郡、隋は陳を平らげて置く。黟、歙の二県はこれに属す。安徽省蕪湖道歙県、現・黄山市歙県）の賊帥の**汪華**は黟、歙等五州に據り，衆一萬有り，自ら吳王を稱す。甲子（60-51+1=１

０日），遣使して來降す。歙州總管に拜す。

■［弋陽の盧祖尚は來降す］隋末に，弋陽（漢の県、南齊は郡と為し、梁は光州を置く。河南省汝陽道潢川県、現・信陽市潢川県）の**盧祖尚**は壯士を糾合し以て鄕里を衛り，部分嚴整にして，群盜は之を畏れる。**煬帝**が弑に遇うに及び，鄕人は之を奉じて光州刺史と為す。時に年十九，表を**皇泰主**に奉ず。**王世充**の自立するに及び，**祖尚**は來降す。丙子（12+60−51+1=２２日），**祖尚**を以て光州總管と為す。

■己卯（15+60−51+1=２５日），詔して天下の戶口を括す。

■**徐圓朗**は濟州（隋の済北郡）を寇し，治中（官名。武德元年に郡の太守を改めて州の刺使と曰い、郡丞を別駕と曰う。未だ嘗て治中を置かず。ここに治中と書すは、別駕を以て治中と為すか。蓋し此の時、官称すは未だ一に定まらず）の吳人の**及論**（続は吳及論）は擊ちて之を走らす。

■癸未（19+60−51+1=２９日），詔して以わく、

「太常の樂工は皆な前代は罪に因りて配沒せられ，子孫は相い承け，多く年所を歷たり，良（まこと）に哀愍す可きなり。宜しく並びて蠲除（免除）して民と為すべし」

と，且つ執事に令し，若し仕宦して流に入れば（流内の官と為るをいう），更に追集する勿からしむ。

突厥■［突厥擊破］甲申（20+60−51+1=３０日），靈州（現・寧夏回族自治区銀川市靈武市一帯）總管の**楊師道**は突厥を擊ち，之を破る。**師道**は，**恭仁**（涼州に鎮す）之弟也。(11−095p)

■［蕭銑討伐軍発す］詔して巴、蜀の兵を發して，趙郡王の**孝恭**を以て荊湘道（荊州は南郡、湘州は長沙郡。荊湘道は南朝の荊湘の所部なるを以てす）行軍總管と為し，**李靖**をして行軍長史を攝せしめ，十二總管を統べ，夔州より流れに順いて東に下らしむ。盧江の**王瑗**を以て荊郢道（郢は隋の竟陵郡）行軍元帥と為し，襄州道に出で，黔州刺史の**田世康**をして辰州（漢の辰陽県、隋は辰溪県と為す。唐は改めて辰州と為す）道に出でしめ，黃州總管の**周法明**をして夏口（漢口）道に出でしめ，以て**蕭銑**を擊たしむ。是の月，**孝恭**は夔州を發す。時に峽江（蜀江二峽を経、之を峽江と謂う）は方に漲り，諸將は水の落ちるを俟ちて進軍せんと請い，**李靖**は曰く、

「兵は神速を貴ぶ。今吾が兵は始めて集まり，**銑**は尚ほ未だ知らず，若し江の漲るに乘り，倏忽として其の城下に抵り，其の不備を掩えば，此れ必ず擒とする有（続は成）り。失う可からざる也！」

孝恭は之に從う。

■［神通と李藝は劉黑闥と戦い破れる］淮安王の**神通**は關内の兵を將いて冀州に至り，**李藝**と兵を合わせる。又た邢、洺、相、魏、恆、趙等の州の兵を發して合わせて五萬餘人，**劉黑闥**と饒陽（漢の県、直隷省保定道饒陽県、現・衡水市饒陽県）の城南に於いて戰い，布陳すること十餘里。**黑闥**の衆は少なく，堤に依りて單行し而して陳し以て之に當たる。會々風雪し，**神通**は風に乘りて之を擊ち，既に而して風は返り，**神通**は大敗し，士馬軍資は三分之二を失亡す。**李藝**は西偏に居り，**高雅賢**を擊ち，之を破り，奔るを逐うこと數里，大軍の利あらざるを聞き，退きて蒿城（本は恒州に属す。時に廉州に属す。直隷省保定道蒿城県、現・石家荘市藁城区）を保つ。**黑闥**は就きて之を擊ち，**藝**は亦た敗れ，**薛萬均**、**萬徹**は皆な虜とする所と為り，發（髪）を截（き）りて之を驅る。**萬均**の兄弟は亡げ歸り，**藝**は兵を引いて幽州に歸る。**黑闥**の兵勢は大いに振う。

【李世民の参謀集団】

■［李世民の天策府に文学士集まる］上は秦王の**世民**の功大なり，前代の官は皆な以て之を稱するに足らずと以（おも）い，特に天策上將を置き，位は王公の上に在り。**冬，十月，世民**を以て天策上將と為し，司徒、陝

東道大行臺尚書令を領せしめ，邑二萬戸（唐の爵九等、王食邑は萬戸、今之に倍す）を增し，仍ち天策府を開き，官屬を置き，齊王の**元吉**を以て司空と為す。**世民**は海内浸く平らぐを以て，乃ち館を宮西に開き，四方の文學之士を延べ，教を出し、王府の屬の**杜如晦**、記室の**房玄齡**、**虞世南**、文學の**褚亮**、**姚思廉**、主簿（二人、教命を省覆するを掌る）の**李玄道**、參軍の**蔡允恭**、**薛元敬**、**顏相時**、咨議典簽（四人、宣傳導引の事を掌る）の**蘇勖**、天策府の從事中郎（二人、長史司馬とともに府事を掌る）の**於志宇**、軍咨祭酒（二人、軍事を謀り、禮儀を贊相し、賓客に応接す）の**蘇世長**、記室の**薛收**、倉曹の**李守素**、國子助教の**陸德明**、**孔穎達**、信都の**蓋文達**、宋州總管の府戸曹の**許敬宗**を以て，並せて本官を以て文學館學士を兼ねしめ，分けて三番と為し，更日に直宿せしめ，珍膳を供給し，恩禮は優厚なり。**世民**は朝謁公事之暇には，輒ち館中に至り，諸學士を引いて文籍を討論し，或は夜分に乃ち寢ねる。又た庫直（親事府に隷す）の**閻立本**をして像を圖き，**褚亮**をして贊を為ら使め，十八學士と號す。士大夫は其の選に預るを得る者は、時人は之を「登瀛洲」（自来相伝えるに、海中に三神山有り、蓬莱・方丈・瀛州。人は至る能わず、至る時は仙と成ると。故に喩と為す）と謂う。（11-096p）**允恭**は，**大寶**（蔡大寶は後梁主の蕭詧を補佐）之弟の子。**元敬**は，**收之**從子。**相時**は，**師古**（顏師古は碩学を以て名有り）之弟。**立本**は，**毘**（閻毘は巧思を以て隋の煬帝に事える）之子也。（錄事二人、記室參軍事二人は書疏表啓、教命を宣行するを掌る、功倉平騎鎧士六曹參軍各々二人、參軍事六人あり）

■［杜如晦と房玄齡の王佐之才］初め，**杜如晦**は秦王府の兵曹參軍と為り，俄に陝州長史に遷る。時に府僚は多く外官に補せられ，**世民**は之を患う。**房玄齡**は曰く、

「餘人は惜しむに足りず，**杜如晦**に至りては，王佐之才なり，**大王**は四方を經營せんと欲すれば，**如晦**に非ざれ不可なり。」

世民は驚いて曰く、

「公の言微(な)かりせば，幾ど之を失わんとす。」

即ち奏して府屬と為す。**玄齡**と常に**世民**の征伐に從い，帷幄を參謀し，軍中多事なり，**如晦**は剖決すること流れるが如し。**世民**は軍を破り城に克つ毎に，諸將佐は爭いて寶貨を取り，**玄齡**は獨り人物を收采し，之を幕府に致す。又た將佐の勇略有る者は，**玄齡**は必ず之と深く相い結び，**世民**の為に死力を盡くさ使む。**世民**は**玄齡**をして入りて事を奏せ令める毎に，**上**は歎じて曰く、

「**玄齡**は吾が兒の為に事を陳じること，千里を隔てると雖も，皆な面談するが如し。」

李玄道は嘗て**李密**に事え，記室と為り，**密**は敗れ，官屬は**王世充**の虜とする所と為り，死を懼れ，皆な曙に達して寐ねず。獨り**玄道**は起居自若として，曰く、

「死生は命有り，憂えて免る可きに非ず！」

衆は其の識量に服す。

■［劉黑闥は瀛州を陷す］庚寅（26-21+1=６日），**劉黑闥**は瀛州（現・河北省滄州市河間市）を陷し，刺史の**盧士睿**を殺す。觀州（隋は東光県を以て觀州を置く。大業の初め、廃す。武德四年に德州の弓高・胡蘇・東光、冀州の阜陵・蓨・安陵・觀津を以て觀州を置く、現・河北省滄州市東光県）人は刺史の**雷德備**を執り，城を以て之に降る。

【蕭銑討伐成功】

■辛卯（27-21+1=７日），**蕭銑**の鄂州（隋は陳を平らげ、江夏群を以て鄂州を置き、江南の江夏に治す。大業の初め復た郡と為す。蕭銑は蓋し州を魯山に置く。河南省河洛道魯山県、現・平頂山市魯山県）刺史の**雷長穎**は魯山を以て來降す。

■［李孝恭は蕭銑を急襲］趙郡王の**孝恭**は戰艦二千餘艘を帥いて東に下り，**蕭銑**は江水の方に漲るを以て，殊に備えを為さず。**孝恭**等は其の荊門、宜都（蕭銑は宜都郡を峡州夷道県に置く、現・湖北省宜昌市宜都市）の二鎮

を拔き，進みて夷陵（現・湖北省宜昌市夷陵区）に至る。**銑**の將の**文士弘**は精兵數萬を將いて清江（佷山の夷水なり、水色清し）に屯し，癸巳（29-21+1=９日），**孝恭**は擊ちて之を走らせ，戰艦三百餘艘を獲り，殺溺死者は萬を計る。奔るを追いて百里洲（枝江県の江中に在り。湖北省荊南道、現・宜昌市枝江市）に至り，**士弘**は兵を收めて復た戰い，又た之を敗り，進みて北江（江水。枝江県に至りて分流して百里洲の北に出て東流する者）に入る。**銑**の江州（宜昌県に北周は江州を置く。隋は廢して巴山県と無し、清江郡に属す。蕭銑は蓋し復た江州をここに置く）總管の**蓋彦舉**は五州を以て來降す。

■［趙元愷は殺される］毛州（魏州館陶県に旧毛州を置く。隋の大業の初めに州は廢す。寶建德は復た置く。唐は之に因る。魏州の館陶・冠氏・博州の堂邑・貝州の臨清・清水を領す、現・河北省邯鄲市館陶県）刺史の**趙元愷**は，性は嚴急にして，下は命に堪えず。癸卯（丁卯×、39-21+1=１９日），州民の**董燈明**等は亂を作し，**元愷**を殺し以て**劉黑闥**に應じる。

■**盛彦師**は**徐圓朗**の所より逃げ歸る。**王薄**は因りて青、萊（東萊郡、北魏の光州）、密（高蜜郡、北魏の膠州、現・山東省青島市膠州市）の諸州を說き，皆な之を下す。

■［李靖の深い作戦］**蕭銑**之兵を罷め農を營む也（前巻三年にあり），才（わずか）に宿衛數千人を留め，唐兵の至り，**文士弘**の敗れるを聞き，大いに懼れ，倉猝に徵兵し，皆な江、嶺之外に在り，道塗は阻遠にして，遽（にわか）に集まる能わず，乃ち見兵を悉くして出でて拒み戰わしむ。(11-097p) **孝恭**は將に之を擊たんとし，**李靖**は之を止めて曰く、

「彼は敗を救う之師なり，策は素より立つに非ず，勢いは久しき能わず，且く南岸（江陵の南岸、馬頭岸）に泊するに若かず，之を緩めること一日にして，彼は必ず其の兵を分けて，或は留まりて我を拒み，或は歸りて自ら守る。兵は分かれ勢いは弱からん，我は其の懈るに乘り而して之を擊てば，勝たざる蔑（な）からん矣。今若し之を急げば，彼は則ち力を並せて死戰せん，楚の兵は剽鋭なり，未だ當り易からざる也。」

孝恭は從わず，**靖**を留めて營を守らしめ，自ら鋭師を帥いて出で戰い，果たして敗走し，南岸に趣く。**銑**の衆は舟を委（す）て軍資を收掠し，人は皆な重きを負い，**靖**は其の衆の亂れるを見，兵を縱（はな）ちて奮擊し，大いに之を破り，勝ちに乘りて直ちに江陵に抵り，其の外郭に入る。又た水城を攻め，之を拔き，大いに舟艦を獲り，**李靖**は**孝恭**をして盡く之を江中に散ぜしむ。諸將は皆な曰く、

「敵を破りて獲る所，當に其の用に藉（よ）るべし，奈何して棄てて以て敵を資（たす）けるや？」

靖は曰く、

「**蕭銑**之地は，南は嶺表に出で，東は洞庭（湖、湖南省武陵道岳陽県、現・岳陽市）に距（いた）る。吾が懸軍は深く入り，若し城をせめて未だ拔かざれば，援兵は四集し，吾は表裡に敵を受け，進退することを獲ず，舟楫有りと雖も，將に安んぞ之を用いるや？今舟艦を棄て，江を塞ぎ而して下ら使めば，援兵は之を見，必ず江陵の已に破れたりと謂（おも）い，未だ敢えて輕々しく進まず，往來覘伺し，動（やや）もすれば旬月に淹まらん，吾は之を取るは必なり矣。」

銑の援兵は舟艦を見，果たして疑いて進まず。其の交州（隋の交趾郡）總管の**丘和**、長史の**高士廉**、司馬の**杜之松**等は將に江陵に朝せんとし，**銑**の敗れるを聞き，悉く**孝恭**に詣りて降る。

■［江陵の蕭銑は降る］**孝恭**は兵を勒して江陵を圍み，**銑**は內外阻絕し，策を中書侍郎の**岑文本**に問い，**文本**は**銑**に降らんと勸める。**銑**は乃ち群下に謂って曰く、

「天は梁に祚（さいわ）いせず，復た支える可からず矣。若し必ず力の屈するを待てば，則ち百姓は患いを蒙らん，奈何して我一人之故を以て，百姓を塗炭に陷とさん乎！」

乙巳（41-21+1=２１日），**銑**は太牢を以て太廟に告げ，令を下し開門して出で降り，城を守る者は皆な哭

す。**銑**は群臣を帥い緦縗布幘し軍門に詣り，曰く、
「死に當たる者は唯だ**銑**耳，百姓は罪無し，願わくは殺掠せざらんことを。」
孝恭は入りて其の城に據り，諸將は大掠せんと欲し，**岑文本**は**孝恭**を說いて曰く、
「江南之民は，隋末より以來，虐政に困しみ，重ねるに群雄の虎爭するを以てす，今之存する者は，皆な鋒鏑之餘，踵(きびす)を跂(あ)げて頸を延ばし以て**真主**を望む，是を以て**蕭氏**の君臣、江陵の父老は計(はかりごと)を決して命に歸し，肩を息める所有るを庶幾(こいねが)う。今若し兵を縱ちて俘掠すれば，土民をして失望せ使め（續は無し），恐らくは此より以南，復た化に向かう之心無からん矣！」
孝恭は善しと稱し，遽に之を禁止す。諸將は又た言う、
「梁之將帥は官軍と拒ぎ斗いて死する者は，其の罪は既に深し，請う其の家を籍沒し，以て將士を賞すべし。」
李靖は曰く、
「王者之師は，宜しく義聲をして路に先だたしむべし。(11-098p) 彼は其の主の為に斗い死し，乃ち忠臣也，豈に叛逆之科に同じくし其の家を籍す可けん乎！」
是に於いて城中は安堵し，秋毫も犯す無し。南方の州縣は之を聞き，皆な風を望みて款附す。**銑**の降りて數日，援兵の至る者は十餘萬，江陵の守られざるを聞き，皆な甲を釋いて而して降る。
■［蕭銑を斬り、李靖は嶺南を安撫］**孝恭**は**銑**を長安に送り，**上**は之を數める。**銑**は曰く、
「隋は其の鹿を失い，天下は共に之を逐う。**銑**は天命無し，故に此に至る。若し以て罪と為せば，死を逃れる所無し！」
竟に都市に斬る。詔して**孝恭**を以て荊州總管と為す。**李靖**は上柱國と為り，爵の永康（婺州に属す、現・浙江省金華市）縣公を賜り，仍って之をして嶺南を安撫せ使め，制を承けて拜授するを得しむ。
■［劉洎を南康州都督府の長史］是より先，**銑**は黄門侍郎の江陵の**劉洎**を遣わして嶺表を略地せしめ，五十餘城を得，未だ還らず而して**銑**は敗れ，**洎**は得る所の城を以て來降す。南康州（この年に端州の端溪を分けて南康州を置き、仍っほ都督府を置き、端・康・封・新・宋・瀧等の州を督す。時に総管府を改めて都督府と為す）都督府の長史に除す。
■戊申（44-21+1=２４日），**徐圓朗**の昌州治中の**劉善行**は須昌（徐圓朗は鄆州の須昌を以て昌州を置く、現・山東省泰安市東平県）を以て來降す。
■［地方行政制度］庚戌（46-21+1-２６日），詔して陝東道大行臺尚書省は、令僕より郎中、主事に至るまで，品秩は皆な京師と同じくし，而して員數は差(やや)少なく，山東行臺及び總管府の諸州、並びに焉(これ)を隸す。其の益州、襄州、山東、淮南、河北等の道は、令僕以下，各々京師に降ること一等，員數も又た焉に減ず。行臺尚書令は制を承けて補署するを得る。其の秦王、齊王府の官之外，各々左右六護軍（秦齊の二府のみに有り、他国には無し）府，及び左右親事帳内府（各々典軍二人を置く、正五品上、副典軍二人、従五品上）を置く。
■［李淵の巡行狩猟］閏月，乙卯（51-51+1=１日），**上**は稷州（武德三年に京兆の武功・好畤・盩厔・扶風県を以て置き、又た郇州を廃し、郿・鳳泉二県を持ってこれに属す、武功に治す）に幸す。己未（55-51+1=５日），武功（現・陝西省咸陽市武功県武功鎮）の舊墅に幸す。壬戌（58-51+1=８日），好畤（武德二年に礼泉を分けて置く、雍州に属す。現・陝西省咸陽市乾県）に獵す。乙丑（1+60-51+1=１１日），九嵕（雍州礼泉県、陝西省関中道、現・陝西省咸陽市礼泉県）に獵す。丁卯（3+60-51+1=１３日），仲山に獵す。戊辰（4+60-51+1=１４日），清水谷（隋志に京兆宜君県に清水有りと）に獵し，遂に三原（本は漢の池陽県界に属す。北周は建忠郡を置く。隋は三原県を置く。唐は雍州に属す。陝西省関中道に属す。現・陝西省咸陽市三原県）に幸す。辛未（7+60-51+1=１７日），周氏陂（現・陝西省西安市高陵区）に幸す。壬申（8+60-51+1=

１８日），長安に還る。
■**十一月**，甲申（20-20+1=１４¥日），**上**は圜丘（貞観礼に冬至、昊天上帝を祀る）を祀る。

■［杜伏威は李子通を執り長安に送る］**杜伏威**は其の將の**王雄誕**をして**李子通**を擊た使め，**子通**は精兵を以て獨松嶺（宜州廣徳県より東南して獨松嶺を過ぎて湖州に至る。嶺格険狭なり）を守る。**雄誕**は其の裨將の**陳當**（本来は陳當世なるに、李世民の諱を避けて唐史は世の字を去る）を遣わして千餘人を將い，高きに乗り險に據り以て之に逼り，多く旗幟を張り，夜は則ち炬火を樹に縛し，山澤に佈滿す。**子通**は懼れ，營を燒きて走りて杭州を保つ。**雄誕**は之を追擊し，又た之を城下に敗る。庚寅（26-20+1=７日），**子通**は窮蹙して降を請う。**伏威**は**子通**並びに其の左僕射の**樂伯通**を執りて長安に送る。**上**は之を釋す。
■［王雄誕は汪華を降す］是より先，**汪華**は黟（現・安徽省黄山市黟県）、歙（唐の歙州は隋の新安郡なり、現・安徽省黄山市歙県）に據りて，王を稱すること十餘年。**雄誕**は軍を還して之を擊ち，**華**は之を新安洞口に拒み，甲兵は甚だ鋭なり。**雄誕**は精兵を山谷に伏し，羸弱數千を帥いて其の陳を犯し，戰いて才に合い，陽（いつわ）りて勝たず，走りて營に還る。**華**は進みて之を攻め，克つ能わず，會々日は暮れ，引いて還り，伏兵は已に其の洞口（歙州の隘道の口）に據り，**華**は入るを得ず，窘迫して降を請う。(11-099p)
■［王雄誕は遂安を説得］聞人の**遂安**は昆山に據り，屬する所（民×）無し，**伏威**は**雄誕**をして之を擊たしむ。**雄誕**は昆山の險隘なりて，力を以て勝つは難きを以て，乃ち單騎にして其の城下に造り，國の威靈（唐の威令）を陳べ，示すに禍福（損得）を以てす。**遂安**は感悅し，諸將を帥いて出で降る。是に於いて**伏威**は盡く淮南、江東之地を有ち，南に嶺に至り，東に海に距る。**雄誕**は功を以て歙州總管に除せられ，爵の宜春（袁州なり、江西省宜春市）郡公を賜わる。
■壬辰（28-20+1=９日），林州總管（隋の慶州華池県に武徳四年に林州總管府を置く、現・甘粛省慶陽市華池県）の**劉旻**は**劉仚成**を擊ち，大いに之を破る。**仚成**は僅に身を以て免れ，部落は皆な降る。
■［李靖は嶺南撫慰大使］**李靖**は嶺を度り，遣使して分道して諸州を招撫せしめ，至る所皆な下る。**蕭銑**の桂州（隋の始安郡、現・広西荘族自治区桂林市）總管の**李襲志**は所部諸州を帥いて來降し，趙郡王の**孝恭**は即ち**襲志**を以て桂州總管と為し，明くる年入朝す。**李靖**を以て嶺南撫慰大使と為し，桂州總管を檢校せしめ，兵を引いて九十六州を下し，戸六十餘萬を得る。

【突厥支援で高開道・劉黑闥南下】

■［李玄通の面目］壬寅（38-20+1=１９日），**劉黑闥**は定州を陷し，總管の**李玄通**を執り，**黑闥**は其の才を愛し，以て大將と為さんと欲し，**玄通**は可からず。故吏は酒肉を以て之に饋る者有り，**玄通**は曰く、
「諸君は吾が幽辱を哀み，幸いに酒肉を以て來たりて相い開慰す，當に諸君の為に一醉すべし。」
酒酣にして，守者に謂って曰く、
「吾は能く劍舞す，願わくは吾に刀を假せ。」
守者は之を與え，**玄通**は舞い荒（おわ）り，太息して曰く、
「大丈夫は國の厚恩を受け，方面を鎮撫し，守る所を保全する能わず，亦た何の面目ありてか世間に視息せん哉！」
即ち刀を引きて自ら刺し，腹を潰り而して死す。**上**は聞き，之が為に流涕し，其の子の**伏護**を拜して大將と為す。
■庚戌（46-21+1=２６日），杞人の**周文舉**は刺史の**王文矩**を殺し，城を以て**徐圓朗**に應ず。

■［高開道は燕王を稱す］幽州は大いに饑え，**高開道**は粟を以て之を賑わすを許す。**李藝**は老弱を遣わして**開道**に詣りて就食に就かしめ，**開道**は皆な厚く之を遇す。**藝**は喜び，是に於いて民三千人，車數百乘，驢馬千餘匹を發して，往きて粟を受ける。**開道**は悉く之を留め，絕を**藝**に告げる。復た**燕王**を稱し，北に突厥に連なり，南に**劉黑闥**と相い結び，兵を引いて易州を攻め，克たず，大掠し而して去る。又た其の將の**謝稜**を遣わして詐りて**藝**に降り，兵をもて援接（授接×）せんと請わしめ，**藝**は兵を出して之に應じる。將に懷戎（北燕州懷戎県は後漢の上谷の潘県、北齊は改めて懷戎と為す。貞観八年に来た燕州を改めて嬀州と為す。直隷省口北道懷来県、現・張家口市懷来県）に至らんとし，**稜**は襲撃して之を破る。**開道**は突厥と兵を連ねて數々入りて寇を為し，恆、定、幽、易は咸な其の患いを被る。

■［劉黑闥は竇建德の旧領を取る］十二月，乙卯（51-50+1=２日），**劉黑闥**は冀州を陷し，刺史の**麴稜**を殺す。**黑闥**は既に淮安王の**神通**を破り，書を趙、魏（戦国時代の趙、魏の境界）に移し，故の**竇建德**の將卒は爭いて唐の官吏を殺して以て**黑闥**に應じる。庚申(56-50+1=７日)，右屯衛大將軍の義安王の**孝常**を(11-100p)遣わして兵を將いて**黑闥**を討たしむ。**黑闥**は兵數萬を將いて進みて宗城（本は廣宗県、隋の仁壽の初めに改めて宗城県と為す。清河郡に属す。時に宗州を置く。直隷省大名道威県の東、現・邢台市威県）に逼り，黎州（武德二年に黎陽県を以て置く、現・河南省鶴壁市浚県）總管の**李世勣**は先ず宗城に屯し，城を棄てて走りて洺州を保つ。甲子（60-50+1=１１日），**黑闥**は**世勣**等を追撃し，之を破り，步卒五千人を殺し，**世勣**は僅に身を以て免る。丙寅（2+60-50+1=１３日），洺州の土豪の**翻城**は**黑闥**に應じる。**黑闥**は壇を城の東南に築き，天に告げ及び**竇建德**を祭り而して後に入る。後旬日にして，兵を引いて攻めて相州を拔き，刺史の**房晃**を執り，右武衛將軍の**張士貴**は圍みを潰して走る。**黑闥**は南に黎、衛二州を取り，半歲之間に，盡く**建德**の舊境を復す。又た遣使して北に突厥に連なり，**頡利可汗**は**俟斤宋邪那**を遣わして胡騎を帥いて之に從わしむ。右武衛將軍の**秦武通**、洺州刺史の**陳君賓**、永寧（永年に作るべし）令の**程名振**は皆な河北より遁げて長安に歸る。

■丁卯（3+60-50+1=１４日），秦王の**世民**、齊王の**元吉**に命じて**黑闥**を討たしむ。

■［昆明・南寧の來降］昆彌（昆明蠻は爨蠻の西に在り、西洱河を以て境と為す、葉榆河なり、「唐代雲南の烏蛮と白蛮」を検索）は遣使して內附す。昆彌は，即ち漢之昆明也。巂州（漢の越巂県、北周は巂を置く、開皇六年に西寧州、十八年巂州、四川省建昌道越巂県、現・涼山イ族自治州越西県）治中の**吉駐緯**は南寧（武德四年に南寧州を置く、雲南省滇中道曲靖県、現・曲靖市麒麟区）に通じ，其の國に至りて之を說き，遂に來降す。

■［劉黑闥は邢州・趙州・魏州・莘州を陷す］己巳（5+60-50+1=１６日），**劉黑闥**は邢州（618 年武德元年唐は襄国郡を邢州と改める。現・河北省邢台市襄都区）、趙州（526 年孝昌 2 年北魏が広阿県に設置した殷州を前身。551 年天保 2 年に北斉により皇太子高殷の諱を避け趙州と改称、現・河北省石家荘市趙県）を陷す。庚午（6+60-50+1=１７日），魏州（現・河北省邯鄲市や河南省濮陽市および山東省聊城市にまたがる地域）を陷し，總管の**潘道毅**を殺す。辛未（7+60-50+1=１８日），莘州（隋の開皇十六年に魏州の莘県を以て置く。大業の初めに廃す。この年復た魏州の莘・臨黄・武陽・博州の武水を以て置く。山東省東臨道莘県、現・聊城市莘県）を陷す。

■壬申（8+60-50+1=１９日），宋王の**元嘉**を徙して徐王と為す。

令和 6 年 5 月 7 日　翻訳開始　11650 文字
令和 6 年 5 月 20 日 翻訳終了　25539 文字